

【9月9日から、クラウドファンディングに挑戦します！】

～お世話になっている皆さまへ～

今日は私から重要なご報告があります！

タイトルの通り、9月9日10時から11月6日23時まで58日間、クラウドファンディングに挑戦します！
プロジェクトを実現したいので、ぜひ、ご支援してください。

・プロジェクトのタイトル

ヴァーチャル顕微鏡で病理標本をデジタル化して、世界へ学習提供する！

・公開後のURL

<https://readyfor.jp/projects/103977>

・目標金額

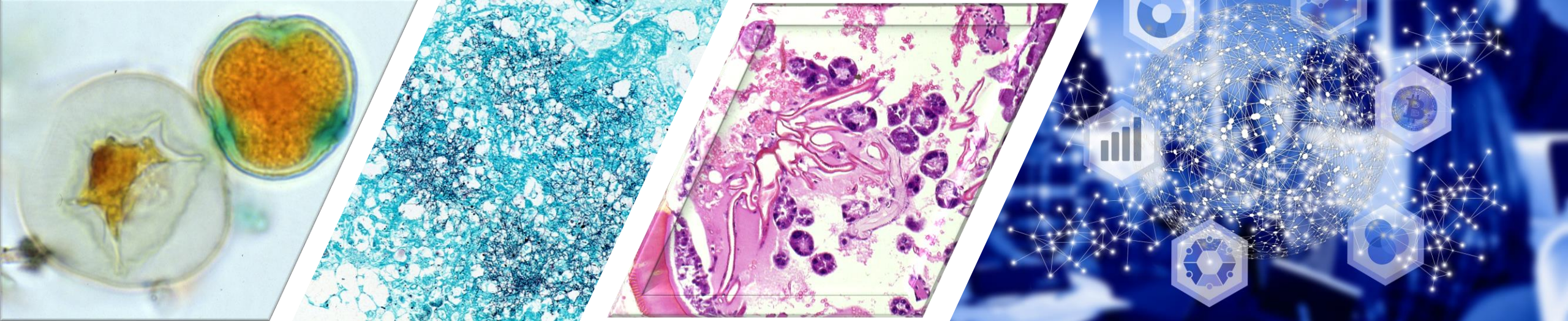
1,500万 9月17日現在 613万円集まりました。

・プロジェクトの概要

顕微鏡標本をヴァーチャル顕微鏡でデジタル化します。そのデータを世界中の医療者、ことに病理医に貴重な情報として利用されるようなシステムをつくります。支援者には1年間アクセスできるようにします。

プロジェクトが開始したら改めて皆さまへお伝えしますので、
その際には、プロジェクトの「拡散」と「ご支援」をぜひよろしくお願いします！

プロジェクトリーダー：堤寛（つつみゆたか）より



病理標本ミュージアムサイト

ここにアクセスすれば、数多くの貴重なケースがある。

(連結不可能匿名化され、個人の特定はできません)

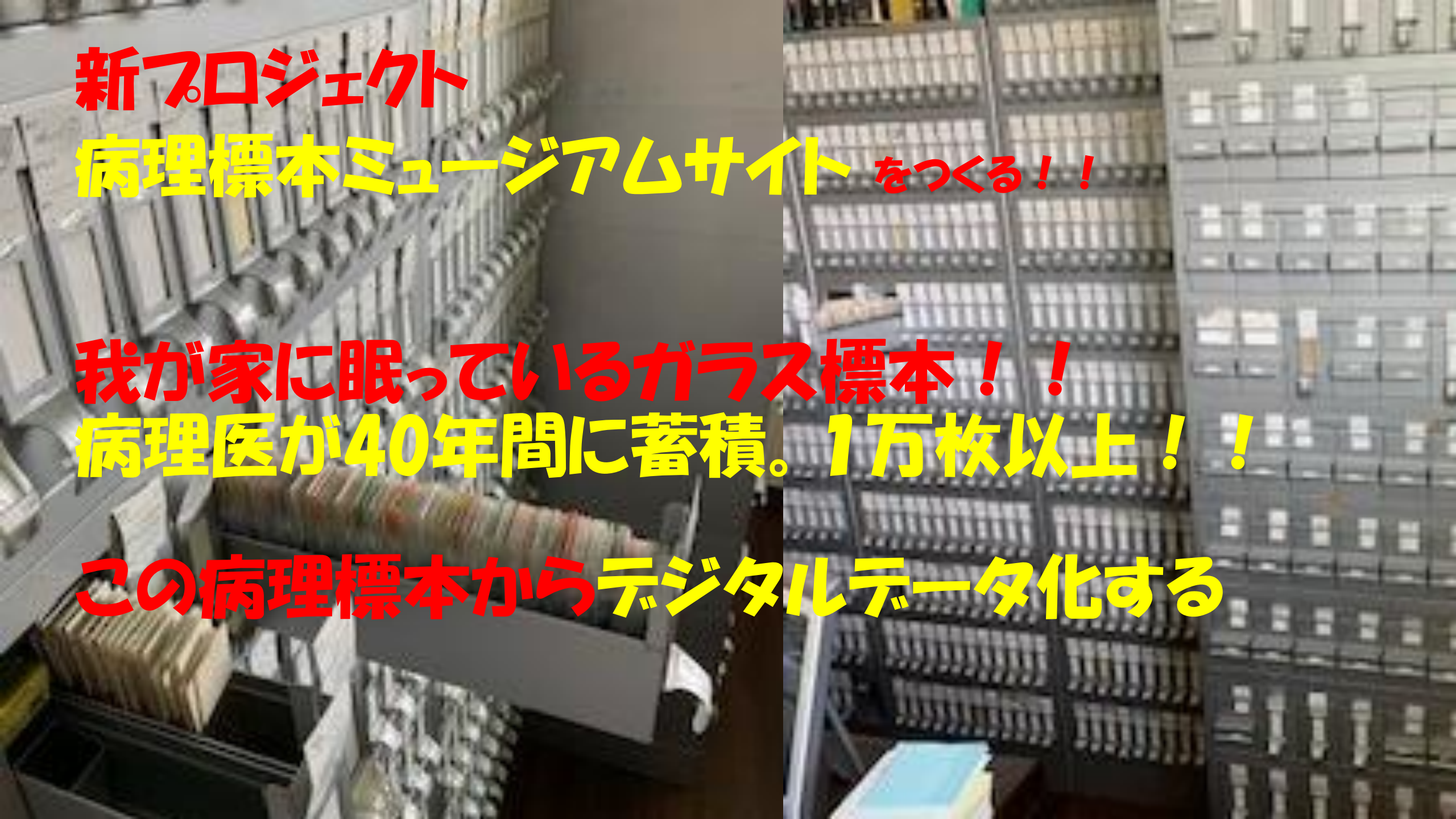
これができたら、すごい！！

できれば、どこかに、医療専門の図書館ができて

「**病理診断データ**」学べる場

ができるといい！





新プロジェクト
病理標本ミュージアムサイトをつくる！！

我が家に眠っているガラス標本！！
病理医が40年間に蓄積。1万枚以上！！

この病理標本からデジタルデータ化する

未来構想・データ化した標本の活用（堤寛）

ヴァーチャル化する標本セットは以下の内容を計画しています。
デジタル化される病理標本群は次のようなカテゴリーに分類する予定です。

- 1) 病理専門医試験用の標本セット（約250枚予定）
- 2) 医学生向け標本セット（約200枚予定）
- 3) 感染症病理セット（約400枚予定）
- 4) 日本に多い疾患（約50枚予定）
- 5) 小児疾患（約50枚予定）
- 6) 細胞診標本セット（一般、約100枚予定）
- 7) 細胞診標本セット（感染症、約100枚予定）
- 8) 分野別標本セット（消化管疾患、約300枚予定）
- 9) 分野別標本セット（肝・胆・膵疾患、約100枚予定）
- 10) 分野別標本セット（呼吸器疾患、約150枚予定）
- 11) 分野別標本セット（循環器疾患、約50枚予定）
- 12) 分野別標本セット（頭頸部疾患、約200枚予定）
- 13) 分野別標本セット（腎・泌尿器、男性生殖器疾患、約200枚予定）
- 14) 分野別標本セット（婦人科疾患、約250枚予定）
- 15) 分野別標本セット（神経、筋疾患、約200枚予定）
- 16) 分野別標本セット（リンパ、血液疾患、約200枚予定）
- 17) 分野別標本セット（内分泌、代謝疾患、約100枚予定）
- 18) 分野別標本セット（乳腺疾患、約150枚予定）
- 19) 分野別標本セット（皮膚疾患、約300枚予定）
- 20) 分野別標本セット（骨軟部疾患、約100枚予定）
- 21) 分野別標本セット（眼疾患、約50枚予定）

**私たちが立ち上がった、クラウドファンディングは
サイトアクセス権を購入する方法での支援です。**

**完成したサイトを見るアクセスは、当初1年間としている。
その後は、データ管理に経費もかかるので、
有料サイトにする計画、検討をしていますが、現時点では、
詳細未定です。**

**このプロジェクトでは、これまでの経験を活かして、
次世代がおおいに活用できるものを作りたい！のです。**

病理標本は3～5ミクロンの厚さに薄切してあり（面が平坦なため）、2次元のスキャンが行われます。一方、細胞診標本には細胞の重なりがあるため、部位を選んで3次元のスキャンが必要となる場合があります（深さ方向のスキャンを要します）。

標本に付加する簡潔な情報を英語化します（個人を特定する情報は含まれません）。データ化された顕微鏡標本は、わが国のみならず、世界中の医療者、ことに病理医に貴重な情報として利用されると強く信じます。システムの維持・管理の目的で、アクセスは有料とさせていただきますが、条件によっては無料閲覧を可能とするようにも工夫します。

ヴァーチャル化された系統的な病理資料（ヴァーチャル標本ライブラリ）は現在、ほとんど例がありません。とくに、日本固有の疾患の病理像を世界中の医療者、とくに専門家（病理医）に閲覧していただけることは、学術的価値が高いと信じます。医学生に病理診断に興味をもっていただき、病理医を目指してもらえたら、病理医不足の解消にもつながります。